

テーマ

多様性を認め働く時代へ！

王子桜中学校
第二学年
生徒

I ①のテーマの記事を選んだ理由を書いてください。

僕は中学二年になり「職場体験」を通して多くの仕事や色々な働き方があり働いて生活していくのは本当に大変なことなんだと実感するようになった。だから「注文をまかせる力」の記事や「座って接客をする」という記事に目が留まり引き込まれて読んだ。これから就職する僕らだけでなく色々な年代の働く人の状況によって働き方はどんどん広がっていくのかもしれない。個性を尊重し多様性を受け入れる令和の時代に僕はこう働いていくのか考えたくて、この記事を選んだ。

II 比べる記事のそれぞれの内容について分かったことを書いてください。

①について 認知症の人が接客をする「注文をまかせる力」というのがある。各地で広がっているが、調布市のカフェは継続して定期的に開かれている。認知症の人でも働きやすいように、覚えやすいものにメニューを絞って注文票の紙は大きめにしたり、テーブルを色分けしたりする工夫がされている。当事者は「毎日でも働きたい」と言っているほどだが活躍の場があまりない現状が分かった。

②について ある「デンスカウト」店では、立ったままレジを打っていた店員が客の波が途切れるとイスに座る。商品を座って袋詰めする店員もいる。店員は「かなり楽になった」と話し、店長も「お客さんから苦情は全く働きやすい環境をつくりたい」と言っている。働き手は接客中に座りたいという希望が多い。一方で「お客さんからの印象が悪化する」という心配から結局イスを導入しない店舗もあることが分かった。

①と②を比べて分かったこと、自分で調べてみたいこと。

一見違うように見える記事だが、①②とも働きやすいように職場が工夫されていることが分かった。

例えば僕は短下肢装具を着けているので、②の働き方はありがたいし、他の人と同じように長時間働けることにもつながる。他にも働き方の工夫についてどのようなものがあるのかを調べてみたい。

III テーマについて、自分の考えや他の人と交流をして気付いたこと、調べたこと、提案などを書いてください。

仕事の種類や働き方は千差万別である。例えば、僕の母は週末だけパートの仕事に出勤している。その理由は「平日は家族の介助をしたい。週末は他の家族に任せられる外で仕事をして社会とつながりを持ちたいから。」だと言っている。母の年代のパートは平日に働くのが一般的である。なぜ週末だけ雇ってくれるのかお店の上司の方にインタビューしたところ「土曜日はパートの人数が少なすぎて助かっている。お店を継続していくのにパートさんの力は大切だ」と思っている。と教えてくれた。母は週1日でも生き生き働いている。企業もその力を必要としているから両方してプラスだと気付いた。また、視覚障がい者で就労支援の会社を経営する高澤俊輔さんの「大丈夫、働けます。」という本を読んだ。その中で、「どんな人にも必ずその人に合った仕事がある。大切なのは、つながりたいという強い気持ち。」という文章が印象に残った。働きたい人が社会や人のつながりを求めて勇気を出しているのだから、その周りの人も受け入れることができれば良いと思う。確かに認知症の令嬢が「一緒に働くのは苦労もあると思う。それでも①の記事には、「注文の間違えがなかったのは逆に残念」と冗談を言えるお客さんがいる。それは認知症でもそうでなくてもお互いを受け入れていくからだと考えた。僕も自分に合った仕事を見つけ、色々な働き方や多様性を受け入れて、生き生きと働きたいと感じている。